

## 2014年度にスポーツ・健康科学プログラムが開講する「FLP演習A（2年次）」 の担当予定者とその講義概要

2014年度に開講する「FLP演習A」の担当予定者とその講義概要は、「プログラム」を選択する際、参考にしていただくために作成しました。そのため、現時点の「FLP演習A」の担当予定者であり、エントリーシートの提出後、演習担当予定者の変更があり得ることをお含みおきください。

### **\* A（担当：村井 剛・法学部）**

テーマ：スポーツに関する認知・心理的側面を理解していくことで、異なる観点からスポーツ現象を捉えていきたいと思えます。

演習概要：年度序盤は、スポーツの技能と学習、心理的効果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理を中心に文献を読み進めていくことから始めます。

中盤では、過去の実験を追試したり、様々なスポーツ現象を題材に討論する機会を設け、体験や思考の中で知識を整理していきます。

終盤は、それぞれが興味を持つテーマに沿って文献を収集し、自分の見解、仮説までを導き出すよう整理します。これによって課題や問題点について検討し、情報をまとめる力、発表する力を養っていきたいと考えています。

スポーツ愛好者、競技者、指導者、それぞれの立場からスポーツ心理を学んでいけるよう授業展開は計画します。

### **\* B（担当：宮崎 伸一・法学部）**

テーマ：時間健康学入門－睡眠、食事、運動と時間の関係を探る－

演習概要：睡眠、食事、運動が健康と関係することは明らかである。最近では、睡眠、食事、運動の内容だけでなく、これらの行為をいつ行うかが重要であることがわかってきている。食事に関していえば、朝食を摂ることは、単に一日の栄養源を摂取するだけでなく、食餌刺激により体内時計をリセットする働きがある。このように、われわれの健康を時間という観点から考えていくのが本ゼミのテーマである。

相当量の文献を読む必要があり、検査のために外部機関に行くこともあるが、これらを厭わず、学生時代を健康に過ごし、高い活動性を得たいと真剣に考えている学生の参加を望む。

### **\* C（担当：加納 樹里・文学部）**

テーマ：健康スポーツ医学の領域で、主に下記の二点を中心にゼミ活動を行う。

- 1) スポーツ選手のコンディショニングについて
- 2) 健康維持に関わる身体活動について

演習概要：

- 1) スポーツ選手のコンディショニングについて：

試合の準備にむけての生活リズムの整え方、トレーニング計画、強度のコントロール、体力測定、準備運動やアフターケア、食事等について、理論を学び、実践する。

実践の意味は、測定等の実施、自身でのコンディショニングの実施体験等を意味する。

- 2) 健康維持に関わる身体活動について：

アスリートのコンディショニングにも通じるが、対象をスポーツ選手に限らず、一般人を対象にした、いわゆる健康スポーツのあり方について学習し、体験（実技）する。

履修者の希望があれば、こどもの身体活動についても対象とする。

#### **\*D (担当：市場 俊之・商学部)**

テーマ：動きを「みるめ」を養う

演習概要：まず、人間の運動発達、動きの分析、動きの学習などスポーツ運動の基礎を取り扱う。ついで、我々人間の動きを時間と空間における移動とだけ捉えるのではなく、物的状況（場の状況や使用する用具など）ならびに規範的状況（ルール、習慣・慣習など）を踏まえて「構造的」に捉える。

#### **\*E (担当：森 正明・文学部)**

テーマ：大学スポーツ（クラブづくり）

日本の近代スポーツ誕生後のスポーツ発展の基礎となった大学スポーツを対象にして、今後の大学スポーツモデルづくりを目指す。個人テーマとしての J リーグ調査や複合型スポーツクラブ調査は「クラブづくり」という共通項で実施する。

演習概要：明治以降の学校スポーツ、特に大学スポーツに焦点をあて、その歴史（文献）と映像による振り返りから始め、現代における大学スポーツの実態調査（リーグ戦等の運営方式や大学ごとの強化策など）を行い、現状把握から、今後のより良きモデル提示を行う。

#### **\*F (担当：小林 勉・総合政策学部)**

テーマ：地域活性化とスポーツ

演習概要：地域を活性化させるのに数多くの選択肢が存在する中で、スポーツはそうした問題にどのように関わろうとしているのか。震災後、日本でも被災地復興や地域活性化の文脈で、いわゆる「スポーツの力」に関心が向けられつつある中、そうした「スポーツの力」はいかに捉えられていくべきなのか。住民による新たな地域活性化の方途をスポーツの事例に探り、スポーツによって描き出される地域構想の実態を多角的に検証しながら、スポーツ実践の向こう側に描かれる地域デザインの理想と現実について考えていきます。

具体的には、大学を核とするスポーツを通じた地域活性化イベントの運営（中大杯）や、進級の住民が混在する地域の年中行事へのボランティアとしての参加、J リーグ加盟を目指して奮闘するサッカークラブの地域貢献活動に関する実態調査等への活動を展開する予定です。

#### **\*G (担当：小峯 力・理工学部)**

テーマ：ライフセービング

演習概要：心身の健康（ウェルネス）、すなわち人間としてより良い生き方を探求するために、生命倫理、救急救命、予防医学という領域を分野横断的に思考し、その理論と実践を通じて、生命の尊厳（Risk management, Self rescue, Water safety）を深めていくことにある。例えば、松田直樹選手（元サッカー日本代表）死亡事故、体罰・暴力問題、ドーピング等など、救急救命の視点から分析し、その生命倫理と危機管理のあり方を検討する。

また大地震（大津波）等の自然災害に対する防災力「想定外を生き抜く力」をどう育んでいけるか。2020年の東京オリンピック開催に向け、スポーツが果たす安全・安心の貢献「自助・共助・公助」とは何か、その可能性を学際的に希求していく。